

令和 8 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

学校・保護者・地域が三位一体で心温まるあったかい環境を創出し、寄り添い指導により、生徒一人ひとりの能力を引き出す教育を実現する。
1 信頼関係構築を基盤とし、コミュニケーション教育を取り入れ、生涯を通して人と上手くつながる力を育成する。
2 家庭、専門人材、関係機関との連携を図り、安心して学習できる環境を整える。
3 個別最適な学習により、基礎的・基本的な学力の定着を図り、学習に対する習慣と自信を身につけた生徒を育てる。
4 自らの人生をどう生きていくのかを積極的に考えられる進路指導を展開し、卒業、進路実現につなげる。
5 生徒支援（個別最適な指導）を軸としたチーム学校を実現し、その魅力を発信する。

2 中期的目標

1 コミュニケーション力（人と上手くつながる力）の育成 （1）本音を話せる関係の構築のため、定期的な面談の実施 ア 二者（担任と生徒）面談により、相互の信頼構築と生徒理解を促進する。 イ 三者（担任と生徒と保護者）懇談により、相互の信頼構築と生徒理解、保護者ニーズを捉える。 ウ PTA 活動により、保護者との連携を図る。 （2）友人や外部人材との関係構築 ア 部活動や生徒会活動、学校行事等を通して、友人との関係づくりを構築する。 イ 居場所カフェを通じて、関係づくりや自己開示により、自分を見つめる機会をつくる。 ウ 外部団体との関わりの中で、地域の人ともつながる経験を行う。 （3）コミュニケーションスキルを身につける ア 登校時やあいさつ運動などで、コミュニケーションの基礎となる挨拶ができるようにする。 イ コミュニケーション学習を取り入れることにより、円滑な関係づくりができるようにする。 ※ 令和 10 年度まで学校教育自己診断における「生徒理解」に関する項目について、生徒・保護者・教職員の肯定率 90%以上(R 7 90%・100%・100%)を維持する。
2 生活の安定（家庭の協力・連携） （1）遅刻・欠席の対策 ア 対話による生徒指導を展開し、家庭との連絡を密にする。 イ スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの連携により、原因や対策について早期に対応する。 （2）関係機関との連携 ア 生徒の諸課題を役所や児童相談所、警察、中学校との連携を通して、解決を図る。 （3）安全・安心な学校づくり ア 定時制の現状に即した防災教育の実践および、生徒の安全に配慮した防災シミュレーション研修、連絡体制を構築する。 イ 健康教育・安全教育等を実施し、家庭との連携で受診勧奨を行う。 ※ 令和 10 年度まで学校教育自己診断における「相談支援」に関する項目について、生徒・保護者・教職員の肯定率 90%以上(R 7 92%・100%・100%)を維持する。
3 学習（学びを習慣づける） （1）自信がつく学びとなるよう、生徒一人ひとりの学力を把握し、個別最適な学びを実現する。 ア 生徒支援の視点から、知識、意欲、適性、学習歴等の個別データ等を教職員全員が共有し、きめ細かな個別の指導を行う。 イ 基礎基本の内容については、必要に応じ、少人数クラスや習熟度別学習、チームティーチングを実施する。 （2）魅力ある授業の実現 ア 総合学科のメリットを生かした特色ある教育活動や生徒の興味・関心を高める教科・科目の設定を行い、学ぼうとする意欲を高める。 （3）教職員の授業力向上 ア 教職員の授業力を高めるため、相互の授業見学を実施することにより、教科横断的な視点で学習の連携を図り、授業研究に役立てる。 イ ICT 機器の活用や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の取組みを研修等により推進する。 ウ 生成 AI の利活用やスマホの使用、情報モラルなどに対応できる力を備える。 ※ 令和 10 年度まで学校教育自己診断における生徒の「授業はわかりやすく楽しいと思う（授業満足度）」85%以上(R 5 93%、R 6 97%、R 7 90%)を維持する。
4 進路実現（自立できる力） （1）キャリア教育、人権教育の推進 ア 入学時から卒業までを見通した進路指導計画に基づき、進路体験（成城キッズニア）を充実させ、卒業時の就労希望者・進学希望者の進路決定率 100%(R 5 100%、R 6 89%、R 7 77%)をめざす。 イ 「社会の一員としての自主性・自立性」を育成する生徒のキャリア教育、就労や進学に向けた取り組みを充実させる。 ウ 人権教育推進計画に基づき、互いを認め合える人権教育の実施といじめ・差別・偏見を許さない態度を育てる。 ※ 令和 10 年度まで学校教育自己診断における生徒の「学校の人権学習の授業は、よかったと思う」85%以上(R 5 88%、R 6 90%、R 7 87%)を維持する。

5	生徒支援を軸としたチーム学校と魅力発信
	(1) 規律・規範のある学校環境をつくり、社会ルールを順守する姿勢を育成するための生活指導をすすめ、生徒の自律心をはぐくむ。 ア 生徒の指導にあたっては、生徒一人ひとりの家庭環境や生育歴など、背景、発達、特性を考慮する。また、専門人材のアドバイスを取り入れながら指導し、改善を前提に本人が理解、納得し、対応できるよう個別最適な生徒指導を行う。
	(2) 生徒支援体制を確立する ア 生徒支援委員会を中心に学年団や各分掌との連携をはかり、組織的・計画的に個々の生徒に応じた支援や学習保障を実践する。 イ 担任や部活動顧問による教育相談をはじめ、専門人材であるスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの積極的な活用や NP0 との連携を推進し、生徒の「居場所づくり」をすすめ、教育相談活動と生徒支援の取組みの充実をはかる。 ウ 職員全体の指導力を向上し、生徒が信頼し相談しやすい安心できる学校づくりを推進するため、校内生徒指導体制の充実を図るとともに、支援教育や人権教育等に関する教職員研修等への取組みを推進する。 エ セーフティネットの学校として確立し、中途退学や不登校の減少に取り組む。 ※ 令和 10 年度まで学校教育自己診断における「教員の指導力」に関する項目について、生徒・保護者・教職員の肯定率 90%以上 (R 7 94%・100%・100%)を維持する。 ※ 令和 10 年度まで中退率 10%以下 (R 5 10%、R 6 2%、R 7 2%)を維持する。
	(3) 学校教育活動の情報発信 ア 保護者や近隣中学校、地域社会に向けて、Web ページ等での積極的な情報発信や広報活動を充実させる。 イ 成城高校定時制の課程への満足度（学校教育自己診断結果）を上げ、Web ページで発信する。 ウ 中学校訪問により、中高連携を図り、支援の充実と本校の取組みのアピール、新入生の獲得のための広報も行う。 ※ 令和 10 年度まで学校教育自己診断における「情報連絡」に関する項目について、生徒・保護者・教職員の肯定率 90%以上 (R 7 95%・97%・100%)を維持する。
	(4) チーム学校の実現 ア 組織改編や複数担任制を導入し、組織的に学校運営を行うことにより、教職員の孤立や仕事が偏らないよう働き方改革を行う。 イ 教職員同士の助け合いにより、時間外在校等時間年間 720 時間以上を 0 名とする。（R 5 0 名、R 6 0 名、R 7 0 名） ※ 令和 10 年度まで学校教育自己診断における「成城高校入学に満足（学校満足度）」に関する項目について、生徒・保護者・教職員の肯定率 90%以上 (R 7 95%・100%・100%)を維持する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R 8 年度値〕	自己評価
1 コミュニケーション（人と上手につながる力）の育成	(1) 本音を話せる関係の構築のため、定期的な面談の実施	(1)	(1)	
	ア 二者面談の実施	ア 二者（担任と生徒）面談を年に 2 回全員に実施することにより、相互の信頼構築と生徒理解を促進する。	ア・生徒向け学校教育自己診断「悩みやいじめ等を相談すれば、親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率を 90%以上に維持する。〔92.1%〕	
	イ 三者懇談の実施	イ 三者（担任と生徒と保護者）懇談を年に 2 回全員に実施することにより、相互の信頼構築と生徒理解、保護者ニーズを捉える。	イ・保護者向け学校教育自己診断「悩みやいじめ等を相談すれば、親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率を 90%以上に維持する。〔100%〕	
	ウ PTA 活動による保護者との連携	ウ PTA 活動を充実させるため、文化教室を実施し、学校と保護者、保護者間の関係構築と連携を図る。	ウ・PTA 活動に年 1 回以上文化教室を実施する。〔新規〕	
	(2) 友人・外部人材・地域との関係の構築	(2)	(2)	
	ア 生徒会・部活動・学校行事で関係構築	ア 生徒会中心で学校行事を企画し、部活動や学校行事を楽しみ、友人との関係づくりを構築する。	ア・生徒向け学校教育自己診断「文化祭・体育祭は、楽しく行われている」肯定率 90%以上に維持する。〔97.4%〕	
	イ 居場所カフェでの関係構築	イ 居場所カフェを通じて、人との関わり方や価値観を理解する。また、困ったことを気軽に相談できるようにする。	イ・生徒向け学校教育自己診断「校内に安心できる場所がある。」肯定率 85%以上に維持する。〔86.8%〕	
	ウ 外部団体・地域との関係構築	ウ 外部団体や地域の方と関わる行事に参加する。	ウ・生徒参加の地域清掃やあいさつ運動、地域行事への参加を実施する。〔地域清掃・あいさつ運動・地域行事〕	
	(3) コミュニケーションスキルを身に	(3)	(3)	

府立成城高等学校 定時制の課程

	つける ア 挨拶によるコミュニケーションの基礎を確立する イ コミュニケーション教育の実施	ア 登校時やあいさつ運動などでコミュニケーションの基礎となる挨拶ができるようにする。 イ 生徒・教職員研修として外部講師によるコミュニケーション学習を実施する。	ア・登校時の教員による挨拶、生徒によるあいさつ運動の実施を継続する。 イ・コミュニケーション学習を年1回実施する。 [新規]	
2 生活の安定（家庭の協力・連携）	(1) 遅刻・欠席の対策 ア 対話による生徒指導 イ 専門人材の活用 (2) 関係機関との連携 ア 関係機関との連携強化 (3) 安全安心な学校づくり ア 防災・安全教育 イ 健康教育実施と家庭との連携	(1) ア 対話により、生徒理解を促進し、家庭との連携・連絡を密にする。 イ スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの連携により、原因や対策について早期に対応する。 (2) ア 役所や児童相談所、警察、中学校との連携を通して、解決を図る。 (3) ア 夜間公共交通機関の運行停止や地震災害を想定した防災シミュレーション研修の実施、連絡体制を構築する。 イ 養護教諭・学校薬剤師と協力し、薬物乱用防止教室を実施する。また、受診勧奨が必要な生徒に対する保護者への連携を強化する。	(1) ア・生徒向け学校教育自己診断「学校生活について、学校の指導は納得できる。」の肯定率を80%以上に維持する。[89.5%] イ・保護者向け学校教育自己診断「学校生活について、学校の指導は納得できる。」の肯定率を90%以上に維持する。[100%] (2) ア・必要に応じ、積極的に関係機関との連携を図る。[子ども家庭センターと連携] (3) ア・生徒向け学校教育自己診断「学校で、事件・地震や火災がおこった場合、どう行動したら良いか知らされている」肯定率90%以上に維持する。[92.1%] ・教職員対象の防災シミュレーション研修を実施し、生徒の避難訓練、保護者への連絡体制を確認する。[新規] イ・薬物乱用防止等の生徒向け講習会の年1回実施を継続する。[1回]	
3 学習（学びを習慣づける）	(1) 個別最適な学びの実現 ア 学力の把握 イ 基礎基本の定着 (2) 魅力ある授業の実現 ア 学ぼうとする意欲の向上 (3) 教員の授業力向上 ア 授業力向上 イ「主体的・対話的で深い学び」の授業の推進 ウ AI活用や情報モラルに対応する	(1) ア 生徒支援の視点から、学力診断テストを実施し、知識、意欲、適性、学習歴等の個別データ等を教職員全員が共有し、きめ細かな個別の指導を行う イ 基礎基本の内容については、必要に応じ、少人数クラスや習熟度別学習、チームティーチングを実施する。 (2) ア 総合学科のメリットを生かした特色ある教育活動や生徒の興味・関心を高める教科・科目の設定を行い、学ぼうとする意欲を高める。 (3) ア 教職員の授業力を高めるため、相互の授業見学を実施することにより、教科横断的な視点で学習の連携を図り、授業研究に役立てる。 イ ICT機器や1人1台端末の活用、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の取組みを研修等により推進する。 ウ 生成AIの利活用やスマホの使用など、情報モラルに対応できる力を備える。	(1) ア・授業アンケート結果の平均値3.5以上に維持する。[3.7] イ・生徒向け学校教育自己診断「授業がわかりやすく楽しいと思う」肯定率85%以上に維持する。[89.5%] (2) ア・生徒向け学校教育自己診断「授業の教科科目は工夫されており、自分の学びたいものがある」肯定率80%以上に維持する。[89.5%] (3) ア・他校の定時制高校や本校全日制の授業見学、外部研修を推奨する。[他校の定時制1回] イ・教員間の相互授業評価を行い、授業研究期間の2回実施を継続する。[2回] ウ・生徒向け学校教育自己診断「コンピュータ、タブレット（1人1台端末）などを使った授業はわかりやすいと思う」ICTを活用した授業の肯定率85%以上に維持する。[86.8%] ・SNSトラブル防止の生徒向け講習会を年1回実施する。[1回]	

府立成城高等学校 定時制の課程

4 進路実現（自立できる力）	（１）キャリア・人権教育の推進 ア 進路指導体制の充実 イ キャリア教育の取り組み ウ 互いを認め合える人権教育	（１） ア 入学時から卒業までを見通した進路指導計画に基づき進路体験（成城キッザニア）を企画し、実施する。 イ 学年毎にキャリア教育 HR 等の実施。就労について生徒の意識向上と勤労観をはぐくむ。 ウ 人権教育推進計画に基づき、進路に関する差別を含め、人権学習を実施する。	（１） ア・生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある」肯定率 80％以上に維持する。[84. 2%] ・進路未決定 0 人の実現 [未決定 3 人] イ・生徒向け学校教育自己診断「産業社会と人間・総合的な探究の時間の授業内容は自分にとってためになっている。」肯定率 80％以上を維持 [86. 8%] ウ・生徒向け学校教育自己診断「学校の人権学習の授業は、よかったと思う」肯定率 80％以上に維持する。[86. 8%] ・人権委員会による生徒向け人権講習会を年 1 回実施する。 [年 2 回]	
5 生徒支援を軸としたチーム学校と魅力発信	（１）生徒の自律心をはぐくむ ア 個別最適な生徒指導 （２） 生徒支援体制の確立 ア 教員間連携 イ 教育相談と生徒支援の充実 ウ 生徒が安心して相談できる体制づくり エ セーフティネットとしての学校づくり （３）学校教育活動の情報発信 ア 情報発信と広報活動の充実 イ 生徒・保護者の満足度を向上 ウ 中学校訪問の充実 （４）チーム学校の実現 ア 組織的な学校運営による働き方改革 イ 長時間労働の防止	（１） ア 生徒一人ひとりの家庭環境や生育歴など、背景、発達、特性を考慮し、専門人材を活用し、チームで指導を行う。 （２） ア 生徒支援委員会を中心に学年団や各分掌と連携をはかり、居場所カフェでも生徒の情報共有を行うことにより、状況によりスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーにつなげる。 イ 担任・顧問による教育相談、専門人材の積極的な活用や NPO との連携で生徒の「居場所づくり」をすすめ、教育相談活動と生徒支援の取組みの充実をはかる。 ウ 職員全体の指導力を向上し、生徒が信頼し相談しやすい安心できる学校づくりを推進するため、校内生徒指導体制の充実を図るとともに、支援教育に関する教職員研修等への取組みを推進する。 エ セーフティネットとして、中退防止コーディネーターを活用し、チームで生徒を支え、中途退学や不登校の減少に取り組む。 （３） ア 保護者や近隣中学校、地域社会に向けて、Web ページ等での積極的な情報発信や広報活動を充実させる。 イ 成城高校定時制の課程の満足度（学校教育自己診断結果）を上げ、HP で発信する。 ウ 中学校訪問により、中高連携を図り、支援の充実と本校の取組みのアピール、新入生の獲得のため広報を行う。 （４） ア 組織改編や複数担任制を導入し、組織的に学校運営を行うことにより、孤立や仕事が偏らないよう働き方改革を行う。また、日常的に教員間で生徒の情報共有ができ、タイムリーに対応できるよう、職員室のレイアウトを変更し、ストレスの軽減やコミュニケーション促進を図る。 イ 教職員のコミュニケーションを円滑にし、助け合いを促進することにより、長時間労働を防止する。	（１） ア・教員向け学校教育自己診断「学校では、生徒支援のための取り組みを行っている」肯定率 90％以上に維持する。[100%] （２） ア・生徒情報共有会議において、生徒の小さなサインを見逃さず、支援に生かす。 生徒情報共有会議を 20 回以上実施する。[28 回] イ・生徒向け学校教育自己診断「学校に安心できる場所がある」肯定率 85％以上に維持する。[新規] ウ・教職員、外部機関や専門人材との連携のため、生徒状況について共有した方がよいものについて、情報共有シートを活用する。 ・教職員研修を 3 回以上実施する。[3 回] エ・中退率を 10%未満に維持する。[0 %] （３） ア・学校 Web ページの更新を 50 回以上実施する。[60 回] ・学校独自の学校説明会を 2 回実施する。[新規] イ・学校教育自己診断結果の肯定率の平均の全てを 70％以上にする [新規] ウ・中学校訪問数 30 校以上 [新規] （４） ア・教員向け学校教育自己診断「学校では、教育活動について教職員で日常的に話し合っている」肯定率 70％以上にする。[60%] イ・時間外在校等時間年間 720 時間以上 0 名を維持する。[0 名]	